

2019年度 事業報告書

特定非営利活動法人 CFF ジャパン

1 事業の成果

【青年育成事業】

(1) 海外プログラムとプログラムリーダーズ育成の深化

2019年度はフィリピン・マレーシア・ミャンマーにて計16回の海外ボランティアプログラムを実施。延べ263名の参加者を現地に派遣し、19名の青年リーダーを育成しました。2020年春は新型コロナウイルスの影響により現地では大きなプログラム変更が生じ、さらに実施予定だった3つの海外プログラムは中止せざるを得なくなりました。

プログラムリーダーズ育成においては、新たに「それぞれの個性を受け入れ、個々の存在を尊重できるチームづくり」をリーダーズのゴールとして決めました。その実現のために、CFFが取り組む社会課題と既存ボランティアプログラムの関係性について考えを深めるワークショップの実施、リーダーシップトレーニング合宿では自身の根源となった経験やリーダー立候補の動機をあらためて振り返り、それを他者と共有することで自他の理解とチームの関係性づくりを促進しました。

(2) 海外プログラムの質の向上に向けたディレクタートレーニングの充実

年間計5回のディレクターミーティングを実施。渡航前に海外ボランティアプログラム質向上に向けて、あらためてどのような青年・チームビルディングを目指すかを議論し、共通認識を持つに至りました。またプログラムへ参加する学生層のみならず現在の社会状況にも焦点をあて、今後団体としてどのような青年を育成していきたいか、またそのために必要な職員のスキルについて検討しました。海外プログラムの質の向上には現地職員との協働が欠かせないため、今後はディレクタートレーニングも現地職員と協働実施を検討しています。その実現に向け、11月に行われた国際コンベンションにおいて各国理事・職員へ合同トレーニングについて提案し、大筋の合意を得るに至りました。

加えて安全な海外プログラム運営のための危機管理面も強化しました。ケースワークを実施し、内容を現地職員にも共有しすることで有事の際の対応に備えています。

(3) 海外プログラム参加後の活動実践の場作りとサポートスタッフの養成

前年度に引き続き、海外プログラムでの学びや体験を、日本の現場へ還元できるような活動実践の場づくりを行いました。場づくりの運営主体が理事や職員中心のチームから、学生中心のチームへ移行することができたのは成果であり、学生の主体性を引き出す機会を設けることにもつながりました。

一方で、組織全体に対する学生等の主体性を引き出すための仕組みづくりに取り組みましたが、明確な仕組み構築には至りませんでした。これまでの取り組みから、学生や若手社会人のポ

ランティアチームが、組織全体のコーディネーターのような役割を自立的に継続するのは難しいことが明らかになってきています。その反面、短期的なプロジェクトでの企画運営といった役割の中では学生メンバーが生き生きと力を発揮できるということも分かってきました。

(4) 学校との協働型事業による青年育成プログラムの構築と実践

協働 6 年目となる順天高校とのフィリピンフィールドワークを実施。9 月下旬から全 8 日間のプログラムに高校 2 年生 4 名が参加しました。文科省スーパーグローバルハイスクール (SGH) 指定校終了となるも二者間の自主事業として継続となっています。自ら設定したテーマにおいて、現地でインタビューし、そこに生きる人の声を聞くことで、複雑な課題や現地の人々が直面している困難と向き合い、その結果当事者目線で物事を考えたり、異なる視点から事象を捉えたりすることができました。

<課題研究テーマ>

- ・バナナの葉活用によるプラスチックごみ削減の可能性
- ・フィリピンと日本の「幸せ」の違い
- ・日本と比較した障がい児教育の現状
- ・SNS を用いた実験動画による教育支援

【海外子ども支援事業】

(5) CFF ミャンマーの団体ビジョン策定支援

児童養護施設の開設計画を模索しています。現段階では時期尚早ですが、長期ビジョンとして今後も模索し続けます。本年度 CFF ミャンマーでは下記の取り組みを実施しました。

<事業づくり>

- ① スタディツアー開催 (年 2 回)、ワークキャンプ事業の模索
- ② コミュニティの排水設備設置プロジェクト現地調査と企画
- ③ 職業訓練活動の支援 (ミシン)、子ども支援 NGO への資金援助
- ⑥ ローカル NGO としての仮認可取得と事務所移転

<基盤づくり>

- ① 理事会活性化
- ② 現地常勤コーディネーターの育成、会計の仕組みづくり
- ③ 事業評価 (協働事業の現場視察と提言)

【その他】

(6) 団体ホームページの一新と運用開始には至らず

早急な完成が求められていましたが、完成まではまだ時間がかかる状況です。学生チームを巻き込んだ制作を試みましたが、進行管理や技術的な問題があり、12 月から新体制を組み直しました。デザインも一新し、少しずつ進展しています。

コロナウイルスの影響で、当初構想時のサイト構成が現状にマッチするのか流動的になってきていますが、次年度は新ホームページの運用開始までもっていく予定です。

(7) 新拠点への移転先の決定

東京都豊島区から世田谷区に事務局移転が実現。都心から離れて地域での活動の可能性が増し、また部屋数が増え活動メンバーのミーティングスペースが拡充できました。

一方で見込み以上に移転の費用や手続きは発生し、また新型コロナウイルスの影響で在宅勤務やオンラインでの活動が中心となり、拠点の本格稼働には至っていません。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数
①-a 海外での開発教育等を活用した青年育成事業	フィリピン ワークキャンプ	8-9月 (3回) 2-3月 (2回)	フィリピン	3名	日本人+ 現地人	93名
	フィリピン スタディツアー	9月 (1回) 3月 (1回)				
	マレーシア ワークキャンプ	8-9月 (3回) 2-3月 (2回)	マレーシア	2名	日本人+ 現地人	85名
	マレーシア スタディツアー	9月 (1回) 3月 (1回)				

	ミャンマー スタディツアー	9月 (1回) 3月 (1回)	ミャンマー	2名	日本人	33名
	インターンの育成(海外)	8-9月 2-3月	フィリピン マレーシア	3名	日本人	日本人 4名
①-b 海外での開発教育等を活用した青年育成事業-教育機関との協働事業	順天高校協働事業	通年	フィリピン	1名	日本人+ 現地人	4名
②「子どもの家」支援等を通じた国際協力事業	フィリピン 「子どもの家」支援	通年	フィリピン	3名	入所児童+周辺地域	17名
	マレーシア 「子どもの家」支援	通年	マレーシア	3名	入所児童	14名
	CFFミャンマー支援	通年	ミャンマー	3名	地域の 児童	5名
③国内での国際協力・青年育成等の啓発・推進事業	プログラムリーダーの育成 と研修実施の支援	通年	都内周辺	3名	プログラムリー ダー	19名
	インターンの育成 (国内)	通年	CFF ジャパ ン事務局	3名	インターン1名	1名
	ボランティアプログラム参加者 向け啓発イベント(事後研修2 日目)の開催支援	5月 11月 (2回)	茨城県境町	1名	ボランティアプ ログラム参加者	300名
	Social Action Challenge プログラム	4月-7月 10月-1月 (2回)	都内周辺	3名	ボランティアプ ログラム過去参 加者	7名
	イベントへの出展 ・活動紹介の支援	1回	都内周辺お よび関西	1名	不特定多数	多数

(2) その他の事業：特になし